

## A 「専用シャフト」の ほうがオススメ

プロの場合、FWはドライバーと同じか変えても重量だけという人が多い。ドライバーとFWを同じスイングで打つことができるので、シンプルな選び方なのですが、アマチュアの場合、コスト度外視ならシャフトメーカーの「専用シャフト」を挿してみましよう。より球を高く上げやすく、つかまりもよくなるモデルがそろっている。ドライバーは飛距離性能の高いシャフトにして、FW・UTは動きを抑えるシャフトにするのもオススメです（石井）



大手シャフトメーカーからさまざまなFW・UT専用シャフトが発売されている。求める球筋が打ちやすく、軽量タイプなど重量帯もいろいろ選べる

Q39 FWのシャフトは  
ドライバーと  
同じか似た  
シャフトがいい？

## A カットするなら 両端を切る

ドライバーと同じシャフトにする場合「切る」という作業が必要になるが片方だけを切るのはダメ。45.5インチのシャフトを3W・43インチにするなら「チップ側を0.5から1インチ、バッド側を1.5から2インチ」と、両方を切る。切るとそのぶんシャフト重量は軽くなるが許容範囲の重量差。軽いと感じるならヘッドに鉛を貼る。スイングバランスも増やせます（今田）

### UST マミヤ LIN-Q (リンク) ブルー-EX

- フレックス/50g台：R、SR、S、SX、X、60g台：SR、S、SX、X、70g台：S、X ●長さ/46インチ ●重さ・トルク/67g・2.9度 (6・フレックスS)
- 中元調子 ●価格/5万5000円
- ※10月6日発売予定



「粘って」安心して  
「ぶっ叩ける」から  
パワーを最大限にヘッドに  
リンク“させる”！

トップから単に粘るだけでなくその粘りが安定するのでタイミングもインパクトも安定する

独自の技術「Qプライコアテクノロジ」を手元部に採用

ゴルフアーの潜在能力を余すことなく引き出す性能を実現したのがUSTマミヤ独自の最新技術「Qプライコアテクノロジ」だ。しなり感を残しつつ、切り返しでのつづれを制御することによりスイング中のエネルギーを増幅。さらにフルレンジスに「トレカ® T1100G」を採用することでロートルク化とシャープな振り感でインパクトを迎えることが可能に。そして、先端部の「トレカ® M40X」により厚いインパクトをもたらす。抜群の安定感と爆発的な飛距離を生み出す、今までにない新時代のシャフトだ。

## A そのシャフトを 説明するうえでの 「ニュアンス」 的な言葉

フィーリングをわかりやすく伝えるためのいい方です。手元剛性の高いシャフトは「走る=スピードが上がる」、先端剛性の高いシャフトは「粘る、叩ける」と表現することが多いですね（鹿又）

僕らは  
こんなイメージを  
もっています



## Q38

特徴の説明で、○○系と表現することがあるが、どう解釈すればいいの？

粘る、叩ける、走る、弾く、って何？

今田	石井	
しなったものがゆっくり復元する		粘る
しなり幅が少なくブレが起りにくい	先端剛性が高く、ハリ感の少ないタイプ	叩ける
「粘る」の反対。しなり戻りが早い	ハリ感があって竹をしならせて弾いたような感じ	弾く
しなり戻りが大きい	ヘッドが手元を追い抜いていくような加速感	走る

○○系のなかの「粘る」「叩ける」の話題を紹介。PGAツアーで実績ある「リンク」が満を持して10月に発売される。スムーズな切り返しからシャフトが粘り、飛ばしに不可欠な「タメ」を安定して作り出す。インパクトにかけてのヨコ方向のブレも抑える性能は、方向性のよさも気になるアスリートゴルファーやハードヒッターが求めるポイント。一般的なゴルフアーも今まで以上に安心してぶっ叩けて、低スピで直進性の高い弾道での飛距離アップが叶う。